

# くすりとからだ ～抗生物質の適正使用について～



こんにちは。市立御前崎総合病院です。  
冬の厳しい寒さも和らぎ、少しずつ春らしくなってきましたね。

2025年春号



病院を受診すると、抗生物質を処方されることがあると思います。薬局に処方箋を持っていくと、薬剤師から「症状が改善しても飲み切るようにしてください。」と言われませんか？

今回は症状が改善しても抗生物質を最後まで飲み切ることがなぜ大切なのかについてお話します。

## 薬剤耐性菌

薬剤耐性菌という言葉をご存じでしょうか？

抗生物質を使い続けていると、細菌が薬に対して抵抗力をもち、抗生物質が効かなくなることがあります。抗生物質が効かなくなった細菌のことを薬剤耐性菌といいます。

## 薬剤耐性菌の危険性

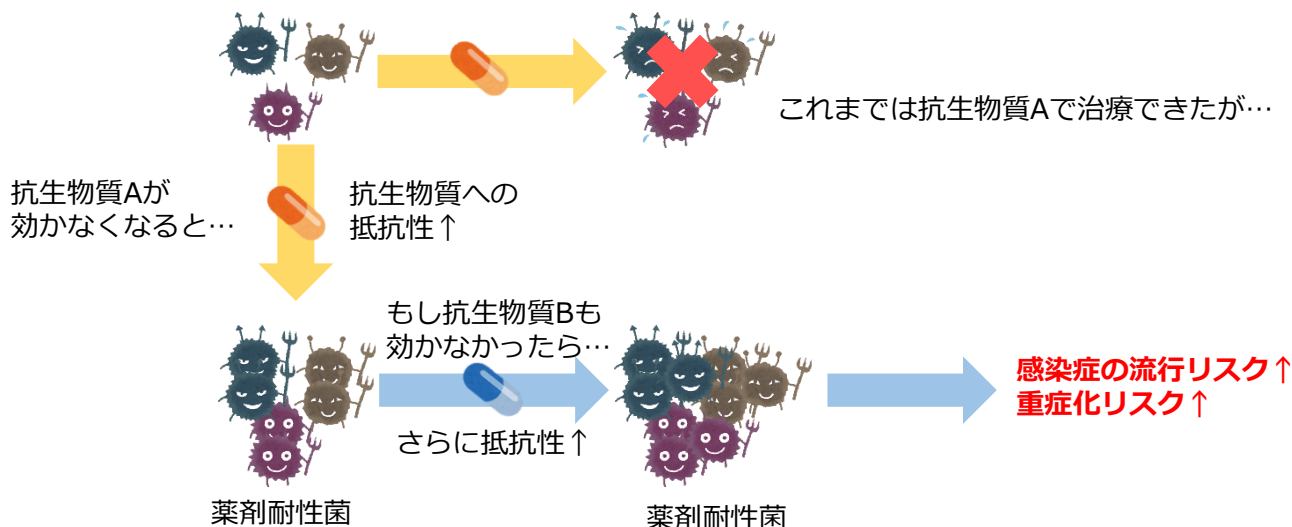
薬剤耐性菌はわたしたちの生活にどのような影響を与えるのでしょうか？

これまで効果のあった抗生物質Aに対して薬剤耐性菌が現れたとします。

当然ながら抗生物質Aは効果を失っていくわけですから、別の抗生物質Bで治療することを考えます。抗生物質Bを使った結果効果があれば治療を続けることができますが、もし薬剤耐性菌が抗生物質Bに対しても抵抗力をもつようになったとしたらどうでしょうか。

さらに別の抗生物質を使って治療を…と考えることもできますが、それを続けていくうちに効果のある抗生物質が減っていき抗生物質を使った治療の選択肢が制限され、最悪の場合、治療できなくなってしまうことが考えられます。

その結果、感染症の流行のリスクや重症化のリスクが高まり、感染症への対策が難しくなってしまうのです。何も対策がとられないと、2050年には全世界で薬剤耐性菌関連の死亡者数は毎年1000万人以上に上り、がんによる死亡者数を上回るともいわれています。



## わたしたちにできること

では、薬剤耐性菌を増やさないためにわたしたちには何ができるのでしょうか？

飲み切るように言われた抗生物質を症状が改善したからといって自己判断で勝手に服用をやめると、抗生物質に耐えた細菌が再び増えてしまい、薬剤耐性菌が現れる原因になります。抗生物質に限らずどのお薬にも共通することですが、医師や薬剤師の指示を守り、正しく服用することが大切なのです。